

# 目次

凡例  
資料解説

## 第一部

### 右翼思想犯罪事件の綜合的研究 (司法省刑事局)

(血盟団事件より二・二六事件まで)

はしがき	五
第一編 明治・大正・昭和時代に於ける日本主義思想の沿革	七
第一章 近代日本の誕生期	七
第一節 明治維新の意義	七
第二節 近代日本の誕生	八
第二章 我国資本主義の成長期	九
第一節 欧米文化直訳輸入時代	九
第二節 日露戦争より世界大戦迄 (日本主義沈潜期)	三
第三章 我国資本主義の爛熟期	六
第一節 国家主義思想の勃興	六
第二節 革新思想勃興の原因	八

第二編	革新的日本主義に依る国家改造運動と不穩事件	三
第一部	血盟団蜂起前迄	三
第一章	民間に於ける革新運動の萌芽	三
第一節	老壮会	三
第二節	猶存社	三
第三節	大学寮	三
第四節	行地社	三
第五節	国家改造運動を刺戟した諸事件	三
第二章	陸軍部内に於ける革新熱	三
第一節	自然発生的部内革新氣運	三
第二節	民間に於ける革新思想の影響	三
第三節	軍備縮小に依る刺戟	三
第四節	西田税、士林莊、天劍党事件	三
第五節	北一輝、『日本改造法案大綱』	三
第六節	兵火事件	三
第三章	海軍部内に於ける国家革新熱	三
第四章	ロンドン軍縮条約と其影響	三
第一節	國際協調主義に依る外交	三
第二節	ロンドン条約問題	三
第三節	ロンドン条約に刺戟せられた改造運動情勢	三
第五章	陸軍部内に於ける大陸問題と国内改造問題	三
第一節	桜会	三
第二節	三月事件	三

第三節	満州事変	三
第四節	十月事件	三
第二部	血盟団、五・一五、神兵隊事件	七
第一章	血盟団事件	七
第一節	日召事井上昭と其の同志	七
第二節	計画熟し民間側第一陣を引受く	五
第三節	犯罪事実の概要	六
第四節	公判竝に判決	六
第二章	五・一五事件	九
第一節	第二陣海軍側の暗躍	九
第二節	犯罪事実の概要	九
第三節	井上昭の革命道、橘孝三郎と其の愛郷塾	一〇六
第三章	五・一五後神兵隊まで	二四
第一節	血盟団、五・一五の残留分子の諸事件	二四
第二節	神兵隊事件の概要	二七
第三節	神兵隊の計画	三三
第三部	神兵隊後より二・二六迄	三九
第一章	概況	三九
第二章	救国埼玉挺身隊事件及其の背後にある急進陸軍青年将校の運動	三四
第一節	急進青年将校を中心とする内乱陰謀事件	三四
第二節	救国埼玉青年挺身隊事件	四一
第三章	陸軍バンフレット問題	四三

第四章	十一月事件	一四
第五章	国体明徴運動	一四
第六章	真崎教育総監更迭	一五
第七章	永田軍務局長刺殺事件	一五
第八章	二・二六事件	一六
第一節	帝都市民に映じたる事件の経過	一六
第二節	原因	一六
第三節	計画進出	一六
第四節	襲撃	一七
第五節	占領・上部工作・鎮定	一七
第九章	頻発したる主要不穩事件概要	一八
第三編	革新理論と革新陣営	一九
第一章	国家革新運動の指導精神	一九
第二章	日本主義運動	一九
第三章	革新陣営の実況	二〇
附録		二二
昭和十一年後半期に於ける左右運動の概況		
		三三
昭和十一年後半期に於ける右翼運動概況		
A	右翼団体の戦線統一運動	三五
一	維新党準備会の動靜	三五
二	愛国労働組合全国懇話会の動靜	三七

三	日本主義農民団体の統一運動	二二七
四	青年層結集運動	二二九
五	維新制度研究会結成	二四八
六	三六俱樂部の右翼団体戦線統一運動	二五〇
七	大和聯盟の結成	二六四
B	右翼団体の一般的運動	二六六
一	右翼団体の人民戦線排撃運動	二六六
二	右翼団体其他の対支膺懲運動	二六九
三	右翼団体の電力国営反対に対する排撃運動	二七三
四	右翼団体の郵船会社不敬事件糾弾運動	二七三
五	二・二六事件後の右翼運動の動向を窺知し得べき通信	二七五
六	神兵隊関係者検束取調状況	二七六
七	主要右翼団体の動静	二七八
八	元神武会員の寺内陸相竝宇垣大将暗殺計画	二八五
九	右翼団体関係者の首相暗殺未遂	二八六
一〇	二・二六事件関係者に対する右翼団体等の賞揚行為	二八八
一一	二・二六事件関係の不穩文書作製者検挙	二八九
一二	右翼団体の左翼団体等との提携等の運動	二九〇
一三	各地方に於ける戦線統一運動	二九二
	ファッシズムの理論	二九五
	第三章 ファッシズム諸団体の主張	二九五
	(イ) 「日本主義」政治団体	二九五

(一)	建国会―機関紙「日本主義」(月刊)	二九六
(二)	行地社―機関紙、月刊「日本」	二九六
(三)	錦旗会―機関紙、月刊「日本思想」	二九八
(四)	尊王急進党	三〇〇
(五)	全日本愛国者共同闘争協議会(日協)	三〇一
(六)	大日本生産党―機関紙、月刊「改造戦線」	三〇二
(七)	日本村治派同盟	三〇七
(八)	中野正剛一派	三〇六
(ロ)	「国家社会主義」政治団体	三〇八
(一)	新日本国民同盟一派	三一九
(二)	日本国家社会党及び雑誌「日本社会主義」一派	三三〇

## 所謂「天皇機関説」を契機とする国体明徴運動

第三章	所謂天皇機関説問題発生前の諸状勢	三四七
第四章	国体明徴運動の第一期	三五五
第一節	所謂「天皇機関説」問題の発生	三五五
第二節	愛国諸団体の運動状況	三七二
第三節	当初に於ける政府の態度	三八五
第四節	美濃部博士の著書発禁等の処置	三八八
第五章	国体明徴運動の第二期	三九〇
第一節	第二期戦の展開	三九〇
第二節	天皇の原義宣明の要望	三九五
第六章	国体明徴運動の第三期	三九八

第一節 国体明徴第一次声明	三九八
第二節 美濃部博士の司法処分を繞る事態の紛糾	四〇四
第三節 白熱化した国体明徴運動	四〇八
第四節 国体明徴第二次声明	四一九
第五節 再声明後の情勢	四三三
第七章 国体明徴運動と国家改造運動	四〇八
第八章 国体明徴問題と永田軍務局長刺殺事件、二・二六事件	四三四
第九章 国体明徴運動の影響	四四一
第十章 国体明徴と神兵隊事件公判	四五二

## 第二部

### 怪文書、檄文、書簡、訓示

宮中重大事件に就て	四九〇
死の叫声	四九七
朴烈怪写真の真相	四八三
文子	四八三
皇道維新の雄叫び 第五卷	四九一
諫抗議録	五七〇
秦憲兵司令官訓話	六〇〇
青年将校の信奉する社会改造運動非常大綱	六〇七
肅軍に関する意見書	六〇九
附「所謂十月事件に関する手記」	六五〇
村中孝次書簡	六七一

軍閥重臣閥の大逆不逞	六七三
教育總監更迭事情要点	六七六
皇軍一体論統編	六八一
機密文書「皇軍一体論」について	六九〇
「肅啓仕候」と冒頭せるもの	六九四
昭和維新情報(一)(二)(三)	六九七